

遺伝子実験施設竣工式典

工学部 新見 治

つつじの花が西条キャンパスを色どり、うぐいすの音がこだまする4月21日、遺伝子実験施設竣工式典が行われた。



この施設は昭和62年5月、中・四国唯一の遺伝子組換え実験設備を持った、学内共同利用の研究・教育施設として発足をみたもので、その後約2年をかけて建物の設計・建築が進められ、ここに完成を見たのである。西条キャンパス、アカデミック地区のほぼ中央に位置する各種センター予定地の一角に位置し、淡い茶褐色のタイル張り一部4階建の研究棟である。建物総面積約1,760㎡、1階の一部と2階にアイソトープ管理区域を持ち、その中にDNA組換え実験指針に準拠した、P-1、P-2実験室各2室、P-3実験室1室の設備を持つ。3階には施設専任教官の研究実験室、器機分析室、遺伝子解析用データ処理室、遺伝子保存室があり、4階には動物飼育室、植物培養室、温室が整備されている。

さて、竣工式典は平成元年4月21日午後1時30分より工学部大会議室で挙行政され、各界から予想を越える約100名のご臨席を賜った。式典は沖原学長の挨拶に始まり、施設長によるお礼と施設紹介に続きご来賓の方々のお祝辞をいただいた。最初に文部省学術国際局研究助成課長、砂子田忠孝氏がバイオテクノロジーの重要性和本施設の果たすべき役割と期待を述べられ、広島県知事、竹下虎之助氏は産業界への貢献への期待、前施設長、福井作蔵名誉教授は本施設発足に至る経緯とお礼を、湧永製薬広島事業所長、不破 亨氏から竣工のお祝いの辞をいただいた。続いて、本施設竣工にご尽力いただいた(株)日立製作所、住友建設(株)、松野電工(株)へ感謝状が手渡され、式は終了した。



引続き施設見学が行われ、約2時間にわたって熱心にご見学いただいた。特に遺伝子解析装置は興味を引いたようだ。

祝賀会は会場を東広島平安閣に移し、午後4時30分から開会。学長代行吉田工学部長の挨拶の後、文部省学術国際局主任調査官、大山 超氏、広島通産局長、高橋光男氏、東広島市長、讃岐照夫氏のお祝いの言葉。それに続き、華やかに鏡割が行われ、東広島市長の乾杯の音頭で祝宴が始まった。引き続き大阪大学、中田篤男施設長、三井石油研究所、藤田泰弘所長よりお祝いの言葉があり、なごやかに祝宴は進んだ。最後に、頼實広島大学前

学長の音頭により万歳三唱が行われ、約2時間の祝宴は盛会裏に幕を閉じた。

最後になりましたが、施設竣工に至るまでに、文部省を始め本学の多数の先生方、事務局の方々の絶大なご尽力を賜ったことに深く感謝致しますとともに、竣工式典の挙行に際し諸種万端ご協力をいただきました、工学部事務局の方々、及び諸先生、学生諸君に心から厚くお礼を申し述べます。

